

普及啓発ワーキンググループ参加団体による 環境教育の実施状況(H27年度)

対象：自然再生対象地域における児童および一般市民

対象	対象別 実施 回数	実施者内訳						
		環境省	アンパル の自然を 守る会	NPO 法人 夏花	地域 広報 サポート 石垣島	NPO 法人 サンゴ 礁基金	わくわく サンゴ 石垣島	
保育園	ちいろば	1	1					
幼稚園	あまかわ	1		1				
小学校	明石	2					2	
	新川	1	1					
	上原	1	1					
	大浜	1					1	
	川原	1					1	
	白保	4		4				
	富野	5					5	
	名蔵	2		2				
	真喜良	9	5	4				
	八島	6	5	1				
中学校	宮良	1		1				
	白保	7		7				
	名蔵	2		2				
高校	特別支援学校	2		2				
	農林	1				1		
	商工	1				1		
市民対象	3高校生物部	2		2				
	一般募集型	13	2	11				
	ブース設置型	4			2(※)	2(※)		
その他	青少年センター	1		1				
計		68	15	27	11	2	4	9

※共同出展

○小学校におけるサンゴ学習について

【課題】

- ・学校の地理的要因や児童数、用意できる予算等により、対象校や実施回数に偏りが生じる。
- ・平成26年度に環境省が島内の全小学校を対象に行ったアンケートでは、サンゴ学習を取り入れることには肯定的であるが、専門家のサポートなしでは実施は難しいという回答を多く得ている。
- ・島内の小学校にバランス良く、継続的にサンゴ学習を展開していくためには、予算の確保がひとつの課題。

【事例】

- ・平成27年度環境省子どもパークレンジャー事業では、保護者からの資金協力により地元の民間企業の施設等を利用した体験学習が実現し、学校と地元企業との連携定着が図られる足掛かりとなった。

【ブース設置型のイベントにて】

島内でブースを設置し出展しているイベントにて、サンゴの学習を受けた児童からの質問や対話があり、更なる学習の意欲が見られた。また、お小遣いから募金するなど、できる活動を実践する姿勢が見られた。

平成27年度 普及啓発ワーキンググループ 参加団体活動紹介

◎アンパルの自然を守る会

アンパルは名蔵川河口域のマングローブ湿地です。赤土汚染等により干潟を埋め尽くすほどの渡り鳥、30分でバケツ一杯の貝が取れた昔の姿はありませんが、今でも生物多様性がありアンパルヌミダガーマユンタに謡われたカニ達も健在です。赤土流出を削減し、大型開発による環境破壊を止め、アンパル再生に取り組みます。

◎石西礁湖サンゴ礁基金

全国から寄せられたご寄付及び県補助金・民間助成金を財源に、他の協議会メンバーと協力して、サンゴ礁再生の事業を行っています。これまでに、農地からの赤土流出対策、オニヒトデ駆除等の事業のほか、赤土問題についての環境教育を行ってきました。今後は、さらに環境教育に力を入れていきたいと考えています。

◎広報サポート石垣島

地域社会のよりよいコミュニケーションを促進し、健全な社会活動に寄与すること目的として2013年に設立しました。環境保全や環境教育を行う地域の非営利団体等の情報発信を支援。メンバー各自の職業上持っている知識や経験、技能を活かし活動しています。

◎NPO法人 夏花

NPO法人夏花では、石垣島白保集落を訪れる人々や地域の子どもたちに対して、自然・文化体験や伝統的な自然資源の利用の知恵や技を伝える事業を行うことで、郷土の文化や集落景観、農地、自然環境、人間関係などの白保らしさを維持・継承するとともに、地域産業の活性化を図り、安心して暮らしていける村づくりを地域住民の手によって進めることを目的としています。

◎わくわくサンゴ石垣島

“サンゴとサンゴ礁について学び、ふれ合うことができる島に”というビジョンを掲げた地域連携プロジェクト『わくわくサンゴ石垣島』の若いメンバーらが中心となり結成した団体です。小学校への学習提供を活動の中心としています。

◎環境省石垣自然保護官事務所

環境省子どもパークレンジャー事業として、島内の小学校の総合学習の時間と連携し、「事前学習→体験学習→事後学習」という、体験から学ぶことを重視したサンゴ学習を展開しています。また、一般の方を対象にしたイベントの開催や国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターでの施設見学対応も行っています。